

Japan Digest No.10

第5回 WEAAD 速報!

2010年6月21日(月)

INPEA 日本国委員会会員各位
第5回 WEAAD 参加者各位

いよいよ東京は先週から梅雨入りしました。
皆様におかれましては、ますますご健勝のことと心からお慶び申し上げます。

世界 50 カ国にネットワークを持つ INPEA(高齢者虐待防止国際ネットワーク)の日本国委員会事務局は、去る6月13日(日)に、**第5回目の「世界で高齢者虐待防止について考える日」(The Fifth Annual World Elder Abuse Awareness Day:WEAAD)[※]**のイベントを、虐待防止アセスメントツールに関するワークショップと同時開催し、全スケジュールを無事成功裏に終えました。

今年は、第5回目の WEAAD 記念事業として、認知症の権威である遠藤英俊先生(名古屋の大府市国立長寿医療センター)にご講演に来ていただきました。また、副田先生・土屋先生らの研究の集大成である虐待防止アセスメントツールの一つである「虐待対応の糸口をつかむタイムシート」の紹介と実践のワークショップを同時開催し、西は四国高知県、北は青森県八戸市から、総勢72名(+スタッフ8名)の方々にご参加いただきました。

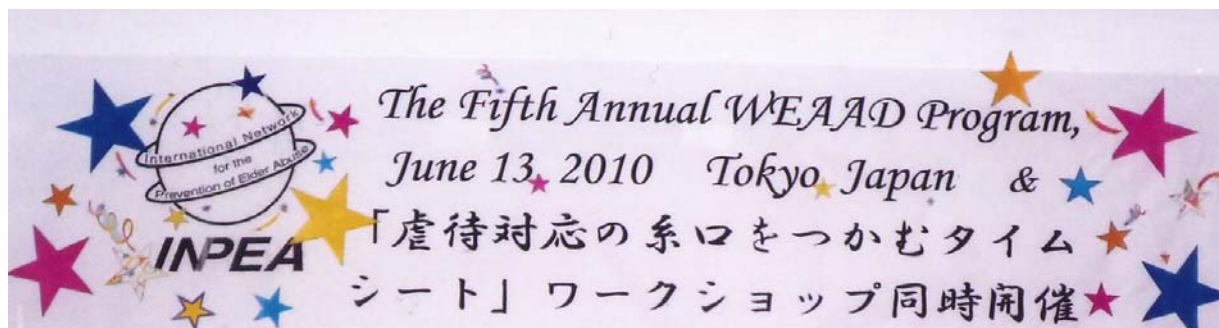
参加者の方々の内訳は、地域包括センター、自治体職員、施設長、および研究者そして大学院生の方々でした。特に今回は、前回と比べると、地域包括センターと自治体職員の方々の増加が顕著でした。おかげさまで、過去最高の参加者数となりました。会を主催しました者として、盛会で会を終えられたことに心よりお礼申し上げます。来年は、6月12日(日)を予定しております!ぜひ、ご参加下さい!

本ジャパン・ダイジェスト10号では、第5回 WEAAD のイベントの様子を速報として紹介します。

※)WEAAD の趣旨:INPEA が毎年6月15日を「世界で高齢者虐待を考える日」(WEAAD: World Elder Abuse Awareness Day)と定めた趣旨は、高齢者虐待が、「グローバルな社会問題」であるという認識を高めると同時に、効果的な対応の必要性を再確認し、この日を機会に高齢者虐待の問題を予防する活動が、次の一年さらに長期の目標に向けて推進するようとの願いで2006年から始めたもの。

INPEA 日本国委員会事務局代表 塚田典子
日本大学大学院グローバル・ビジネス研究科
電子メール: tsukada.noriko@nihon-u.ac.jp
Tel: 03-5275-9430(研究室)
Fax: 03-5275-8386(講師室)
日本 INPEA の URL: <http://www.inpea.jp>

第5回「世界で高齢者虐待防止について考える日」イベント開催速報！



INPEA(高齢者虐待防止国際ネットワーク)日本国委員会は、節目の第5回である「世界で高齢者虐待防止を考える日」(WEAAD)のイベントを、昨6月13日(日)の午後1時半から午後5時までの約3時間半、首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスにおいて、虐待対応の糸口をつかむタイムシートワークショップ」と同時開催で記念事業を無事終えました！

ここではプログラムに沿って、簡単にプログラムの内容を御紹介いたします！

1. 13:30～13:40 の開会の挨拶(塚田:INPEA 日本国委員会代表)

本来でしたら、INPEA アジア地域理事の多々良紀夫(淑徳大学大学院総合福祉研究科)が挨拶を担当する予定でしたが、我が国を代表して社会福祉の国際学会に参加されたため、日本国委員会代表塚田が代理で開会の挨拶をいたしました。

塚田のご挨拶の要点は以下の3つでした。

- (1) 第5回目 WEAAD イベントの簡単なお紹介とご参加へのお礼
- (2) INPEA 会員 100 名突破のご報告とお礼と新入会員の募集
- (3) 今回イベントの資料およびスケジュール紹介



【ボランティアの五島さん(左)と塚田(右)】

2004年に会員数24名で受け継いだINPEA日本国委員会の会員数が、この度のイベント開催に際し、

会員100名を突破！

致しました。皆様のご協力に心からお礼申し上げます！

2. 13:40～15:00 の遠藤先生(国立長寿医療センター)による「高齢者虐待防止と認知症」の講演
名古屋大府市にある国立長寿医療センター包括診療部長、遠藤英俊先生をお迎えして、「高齢者虐待防止と認知症」のタイトルで1時間5分ご講演いただき、約10分間の質疑応答を行いました。

遠藤先生は、認知症の早期発見と治療に関する最新の情報を、ご講演くださいました。

具体的には、認知症の主な症状、アルツハイマー型認知症の臨床症状の経過と薬の効果、認知症の診断技術の向上と認知症の早期発見・早期治療の重要性等について、最新のデータと画像を提示しながら、講演してくださいました。

そして、「認知症は予防できるか？」という我々の最大関心事に対して、これまでの研究結果から、以下の5つにまとめられました。

- (1)「よく頭を使う人は認知症になりにくい」
- (2)「高血圧症の薬を飲む人と発症を遅延できる」
- (3)「ある種の抗炎症薬が有効ではない」
- (4)「運動を継続的にする人はなりにくい」
- (5)「野菜を多く食べると認知症になりにくい」



最後に、高齢者の尊厳を支えるケアのあり方として、地域ぐるみ、ひいては、県ぐるみの認知症高齢者支援体制が確立すれば、おのずと高齢者虐待防止へつながっていくと熱く語られました。高齢者虐待の被害者の内、約6割が認知症であることを示し、まずは、認知症について正確に理解し、その理解を基に、偏見をなくしてケアをする。その際に、地域でインフォーマルケアの取り組みと支援体制を整えることが不可欠で、高齢者虐待防止支援体制の構築には、地域包括センターと行政の役割が非常に重要になり、要となってくると力説されました。



【熱心に講演される遠藤英俊先生】

2. 15:15～17:00 の土屋先生(立正大学)と副田先生(首都大学東京)による 「虐待対応の糸口をつかむタイムシート」のワークショップ

ここでは、副田先生、長沼葉月先生(首都大学東京)、そして土屋先生らが開発した、要介護者の家族支援のための虐待対応アセスメントツール(4種類で構成される)のうち、「虐待対応の糸口をつかむタイムシート」を紹介されました。実際に参加者が2人ペアになって、その実践(ロールプレイ)するというワークショップでした。これは、介護を行っている家族のお世話の内容を時間に沿って丁寧に記録していくという作業で、「お世話のできてなさを暴くものではなく」反対に、「お世話の大変さ」を目に見える化することによって、今後の支援の糸口を視覚化していく作業シートの使い方と声かけの方法を実践しながら学ぶものでした。

心に残ったこの糸口をつかむアプローチのキーワードとして、講師の土屋氏は、「心の底から出てきたねぎらいの言葉」(「大変ですね」だけではなく、そこにプラス「よくやってこられましたね」というねぎらいの言葉を添える)、「介護者の『強み(大変な介護を続けている強み等)』を心から伝える」(例えば、「何が支えになっていらっしゃるのでしょうか?」とか「どうやってこのような大変なことを続けることができるのでしょうか?」など)、そして、「のりくり技法」(＝先を急がずに、一気に問題解決を急がずに、のりくりりてつなげる＝細く長く支え続けるつもりでいく発言の仕方)を説明・紹介した。また、「全ては相手の状況の正しい理解から始まる」と強調されました。

ワークショップの後は、活発な意見や質問が出されていました。また、皆さん、笑顔になりました。



【概要を話される副田先生】



【熱心に講演される土屋先生】



【楽しく熱心にロールプレイをする参加者の皆さん】

第 5 回 WEAAD のイベントとワークショップが終了後には、時間の許される参加者の方々に協力いただき、世界 INPEA に向けて、「日本からこんにちは、第 5 回 WEAAD 記念」のカードを持って、集合写真を撮りました。そして、午後 5 時 15 分頃、スケジュール通りにイベントを終えました。

皆様、本当にご参加、ありがとうございました。そして、来年もぜひご参加下さいますよう、心からお願い申し上げます！皆さんと共に、社会における高齢者虐待に対する関心を少しでも広め、虐待防止へつながる活動を微力ながら継続していきたいと願っております！

**イベント終了後、おかげさまで、INPEA の会員数が 113 名になりました！
皆様、ご入会、誠に有難うございました！**



【イベント終了後に、「HELLO FROM JAPAN!」のカードを掲げて！記念集合写真】



<発信元>

INPEA 日本国委員会代表 塚田典子
日本大学大学院グローバル・ビジネス研究科
電子メール: tsukada.noriko@nihon-u.ac.jp
Tel: 03-5275-9430 (研究室)
Fax: 03-5275-8386 (講師室)
INPEA の URL: <http://www.inpea.jp>

※会場設定・受付等のボランティアをしてくださった皆さん、ありがとうございました。また、写真には写っていませんが、首都大学東京大学院生坂本さんにもお手伝いいただきました。この場を借りまして、お礼申し上げます。